



国分病院

(平成 29 年 9 月 8 日訪問)

平均在院日数 108 日 (平成 29 年 9 月 1 日時点)

積極的な取り組みなど

- 療養病棟では退院への意欲を高めるために園芸療法や SST が週 1 回行われ、内容は外出・カレンダー作り、1 階喫茶店でお茶会やメイク等をするおしゃれイベントが行われていた。
- OT の職員が増員されたため、9 月 18 日より個人 OT・同伴 OT は週 5 回、病棟 OT は全病棟で週 3 回ずつ実施するとのことだった。
- 売店で購入可能な商品の一覧がファイリングされており、各商品のカラー写真や値段が記載され、とても分かりやすかった。

- 病院に預けている金銭を受け取るための専用の窓口があった。

前回の訪問(平成25年2月)から改善されていた点

- 前回訪問時、公衆電話の掲示物が高さ 170cm 位の位置に貼られていたことについては、今回は車椅子の患者からも見やすい高さに掲示されていた。

病院全体

前回訪問時(平成 25 年 2 月)に 251 床あった病床が、平成 26 年 3 月に 201 床に減床されていた。平成 25 年 1 月に認知症病棟を開設したが、入院者が少なく閉鎖したとのことだった。病院の南側にあった同法人の老人保健施設(50 床)は、平成 26 年 7 月に東館 3 階病棟だった場所に移転して、老人保健施設ローズウッド国分(50 床)として運用されていた。

CS 委員会(カスタマーサービス委員会)提案箱

委員会は月 1 回開催され、委員長は 1 年毎に各職種持ち回りで担当していた。意見箱は「提案箱」という表示で、電話ボックスの中や詰所カウンターに設置されていた。回収は 2 週間に 1 回で、提案箱の設置場所とあまり関わりのない職種(例えば事務・心理士・PSW 等)が行う。委員会副委員長が回答すべき部署に振り分け、各所属長が回答する。複数部署からの回答が必要な場合や検討が必要とされる意見は、委員会で検討される。委員会でも回答できない場合は、病院全体の連絡会議で検討する。

拘束・行動制限

車椅子のずり落ち防止用のベルトは、身体拘束と位置付けて手続きをしていた。訪問時、開放処遇制限のある患者(外出に同伴が必要な患者も含む)は病院全体で 25 名で、行動制限最小化委員会で毎月検討し、徐々に減ってきているとのことだった。

診察・薬

各病棟、診察室は 2 室ずつあった。病棟主治医が決まっていた。薬は職員が病室を回って配る。退院が近い患者は自己管理できるように個別支援をしていた。

洗濯

干場は男性・女性用で分けて施設されており 10～17 時の時間帯に職員に申し出ると使用できる。洗濯を委託する場合は月 4,700 円。

金銭管理等

病室に鍵付ロッカー(使用料無料)があった。病院に金銭を預ける場合の管理料は 1 日 120 円。病院管理の割合は半数弱。患者ごとの残高は毎



日プリントアウトされたものが詰所で保管されており、患者から尋ねられたら口頭で伝える。

面会

面会時間は、家族は9～17時、友人知人は14～16時半。

PSW・退院支援

PSWは8名（デイケアは別）。病棟毎に担当が決まっていた。医療保護入院者退院支援委員会の退院後生活環境相談員はPSWが担っており、希望により患者や家族も参加しているが、地域の関係機関の参加は得ていないとのこと。療養病棟の退院支援委員会における退院支援相談員もPSWが担っている。退院支援委員会は月1回以上開催されており、医師・看護師・心理士・PSWなどが参加している。

病棟の様子

隔離室

病院全体で33室あった。

西2・3階病棟は同じ構造であり、全ての部屋に集音マイク、一部にはカメラが付いていた（室内とトイレ上部の2ヶ所に設置されている場合もある）。室内のテレビは詰所に依頼すれば視聴できる。カレンダー付きのデジタル時計が設置されていた。トイレは壁で仕切られており、ナースコールが付いていた。トイレ入口はカーテンがあった。トイレの水洗は切替式。室内に簡単な手洗い、前室には、鏡や洗剤が付いた洗面台があった。窓から外の景色が見え、明るかったが、患者があまり眠れていないようなら、ブラインドを下げて対応することもあるとのこと。

東館2階では訪問時、全てが使用されていたが、時間開放や個室対応の患者が入室していた。トイレには仕切りがあり、トイレの水洗は切替式だった。

電話

デイルームの近くにある個室に設置されていた。携帯電話は詰所に預ける。外出時に受け取って、病棟外で利用できる。個室の患者は個室のみ使用できる。

東2階病棟 閉鎖 男女 精神療養 53床

カンファレンスに力を入れており、患者それぞれについて月1回は医師・担当看護師・OT・ケースワーカー等で話し合っているとのことだった。

患者の声

「4年入院している。外出はしない」「外出はしない。足腰を鍛えるために病棟内を歩いている」「長く入院している。在院期間は約5年」

西2階病棟 閉鎖 男女 精神科救急 48床

デイルームに出ている人が少なく、静かな印象だった。

患者の声

「落ち着いています。入院して半月。入退院の繰り返し」「スーパーに買物に行けるし、売店にも一人でできる。お金は自己管理している」「看護師は優しいし、丁寧」「OTはあるが、とにかく暇な時間が多い」「外泊予定の時に持ち帰る薬の準備ができていなかった。看護師を通して主治医に伝えてもらうことになっていたが、伝わってなかったようだ」「家より安心する。先生がいいというところまではいます」

西3階病棟 閉鎖 男女 精神一般15:1 48床

この病棟に直接入院して数日で退院する患者もいれば、認知症の患者で施設が空くのを待って入院している患者等、様々な患者に対応しているとのこと。

患者の声

「入院して4年6ヶ月。入浴は水曜日。ゆっくりと入っている。おできができていたので、週2回、外科へ行っている。それ以外は、病院の外には出ない」「売店で、パンやコーヒーを買っている。伝票で支払っている」「入院して16日目。前は自分で金を管理していたが、とられると困るので詰所に任せている」「入院4年。外出はおやつを買いに



売店に行くぐらい。11月3日には、バスでみかん狩りに行く予定になっている」「食後に、自分の名前が書かれた薬を持ってきてくれる。薬の説明もしてくれる」「外とは公衆電話で連絡を取っている。娘が週2回、洗濯物を取りに来てくれる。その時お小遣いも貰う。売店は毎日行く」「外出したい」「診察は週2回。軽く二言程、調子はどうですか等と聞く位」

西4階病棟 閉鎖 男女 精神療養 52床

長期入院の患者、精神科救急病棟から転棟してきた患者等、入院期間には幅がある。

患者の声

「35年入院している」「売店で買物をする。お金は自分で少し持っている。お金は家族からもらう」「売店に看護師同伴で行っている」「薬の説明は言えば薬剤師が来てくれる。何も言わない医師と説明してくれる医師がいる」「以前、主治医をかえて欲しいと言ったら、かえてくれた」

検討していただきたい事項

診察の頻度と退院に向けての情報提供等について

患者から、「半月入院しているけど診察はない。診察ではなくて様子を見にくる」「入院して3ヶ月近く経つが、主治医にまともに診察してもらったことがない。他の先生は毎日担当の患者の顔を見に来てくれている。主治医を変えて欲しいとお願いしたことがあるが、できないと言われた。診察の希望を看護師に伝えても診てもらえなかった」など、主治医の診察の頻度について複数の声や、「できるなら退院したい」「治療計画書はない」といった声も聞かれた。

（病院：診察は、重症の方や入院当初の方にはより多く、軽症・改善傾向の方には頻度が少なくなってしまうますが、今後はそういった診療体制を理解いただけるよう説明に努めます。

各患者のベッドボードには、主医師・担当看護師・担当PSWの名前を記載した紙を貼り付けています。入院時や治療計画の変更、推定入院期間更

新の際などには必ず入院診療計画書を医師が記載し、患者にサインをいただいています（サインができない方には家族に協力を求めています）。また、PSWが所属する地域医療連携室の案内を各病棟や外来にも掲示しています。各病棟で病棟機能に沿った多職種カンファレンスを実施しています。

上記のような取り組みは行っていますが、それらがまだまだ各患者にまでは浸透していないということを改めて感じました。今後はより積極的な関わりや、掲示物のレイアウトや掲示場所の検討、外部の社会資源についての掲示を行って取り組みや情報の普及に努め、職種や相談内容に関わらず気軽に声をかけられると感じていただけるようにしていきたいと思います。

退院支援に関しては、かなり積極的に取り組んでいると自負していますが、病気・障害の重篤さもさることながら、家族や金銭面など社会的問題が重複している方や制度と制度の隙間にある方の入院の長期化、退院支援の難しさを痛感しています。新たな社会資源を探ること、また社会資源をつくること、そのために提言していくことにも挑戦しつつ、1人1人の患者の退院支援に繋がるよう、日々努力していきたいと考えています。）

提案箱への回答について

提案箱に入った意見への回答は提案箱がある場所にファイルを設置し、最新の3ヶ月分をファイリングしているという説明があった。しかし、訪問時にそのファイルを確認できたのは西3階病棟のみで、テレビ台の中にあり、3ヶ月以内の投書に対する回答はなかった。（病院：運用等の周知の徹底および運用後の状況確認などを実施するなどの改善を行い、以下のとおり改めました。案内掲示については投書箱の設置案内、また回答書類の設置場所案内をおこなう。回答書類の掲示と閲覧期間については①回答書類の最新分を掲示板へ掲示する。②過去の回答書類閲覧を今後1年間保管する。③履歴ファイル位置を固定する。④CS委員会時にファイル追加作業を行う。）

入浴について

入浴回数は原則2回で希望入浴を含めると週3回と言う患者もいたが、「入浴回数が少ないからトイレのところにある洗面台で髪の毛を洗うことがある」「希望入浴の日でも、介助が必要な人と洗濯を業者に出している人は入浴できない」との声も聞かれた。(病院：週3回入浴は、見守りで入浴できる方は積極的に勧めます。介助の方は、介助する要員が数名必要となるため現時点では週2回となってしまうのが現状です。清拭は毎日実施しています。今後、業務改善を行いながら、検討していきます。)

「お小遣い窓口」の表記について

病棟では「お小遣い」という言葉を日常的に使ってきたことは想像でき、患者にとっては分かりやすい表記であるかもしれないが、この窓口で患者が受け取るのは、患者自身のお金のことである。表現を改めることはできないだろうか。(病院：患者の金銭管理の運用、特に主な書類、掲示、案内時の表記などにつきましては、約定書「入院患者預り金」、預かり証「日用品費・小遣用預り金証」、出金窓口「お小遣い窓口」、入院しおり「金銭管理」など複数使用している状況です。統一することをこれまで検討した経緯もありますが、疎通をはかりやすいなどの利便性を理由に、現状で運用しております。現時点では継続して使用させて頂く考えです。)

精神保健福祉資料より(平成28.6.30時点)

174名の入院者のうち統合失調症群が116名(67%)、気分障害が21名(12%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が14名(8%)。入院形態は任意入院58名(33%)、医療保護入院105名(60%)、措置入院10名(6%)。在院期間は1年未満が109名(63%)、1年以上5年未満の患者が44名(25%)、5年以上10年未満の患者が11名(6%)、10年以上20年未満が6名(3%)、20年以上が4名(2%)。

ほぼは 大阪府内の精神科病床のある
全病院への訪問活動の報告です。



クリック

病院訪問活動から考える
権利擁護

この本の使い方はいろいろ

- 「大阪府内の精神科病院の情報を知りたい」
- 「病院訪問活動の視点を知りたい」
- 「実習前に精神科の療養環境について知っておきたい」
- 「自分の勤務する病院を見つめなおしたい」

認定 NPO
大阪
精神医療
人権センター
30周年

A4 サイズ / 210 ページ
2,000 円

目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言



療養環境サポーター
最新報告

人権センターニュース毎号2病院掲載中

入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～ 4,000 円／2 名分）や複数の事務局スタッフの人件費（年間約 500 万円）が必要となります。

会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

会員種別
年会費

賛助会員

障害者 1,000 円
個人 3,000 円
団体 5,000 円

特別協力会員
& 寄付
大募集

特別協力会員

A 10,000 円
B 30,000 円
C 50,000 円

会員特典

人権センターニュースの送付 2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等を知ることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。

メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加のための情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNS による情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。



寄付特典

ご寄付をしていただく場合、確定申告によって『税額控除』を受けることができます。

税額控除とは？

※確定申告は最寄りの税務署にご相談ください。

※大阪府（堺市を除く）に在住の方は、地方税も控除されます。

※控除には限度額があり、実際の税額はケースにより異なります。

寄付金 1 万円の時

所得税額 -3,200 円

実質負担 6,800 円

寄付金 5 万円の時

所得税額 -19,200 円

実質負担 30,800 円

10,000 円のご寄付で、2～3 名の面会が可能になります。



郵便払込	口座番号 00960-3-27152 加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター
銀行振込	三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805
現金	講演会会場・事務所にて
クレジットカード	ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター
<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。

クリック

認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール advocacy@pearl.ocn.ne.jp